

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立砂川高等学校 学校運営連絡協議会（通信制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、総務主任＝事務局長、総務部教員 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務部主任、教務部主任、生徒指導部主任、進路指導部主任
- (4) 協議委員の構成
地域の学校（1名） 地域の企業（1名） 地域の外部団体（2名） 計4名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年7月1日（金） 内部委員7名、協議委員4名、本校応接室
協議委員委嘱、委員紹介、設置要綱配布、令和4年度学校経営計画、令和3年度学校経営報告
今年度の各分掌の組織目標、取組について
 - 第2回 令和4年11月10日（木） 内部委員7名、協議委員2名、本校応接室
今年度の教育活動に関する経過報告、学校評価アンケートの内容検討、協議、意見交換
 - 第3回 令和5年2月3日（金） 内部委員7名、協議委員3名
各分掌から今年度の教育活動全般に関する報告、学校評価アンケートの集計・報告
協議委員との意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月10日（木） 内部委員3名、評価委員1名
今年度の学校評価アンケート内容と実施に向けて意見交換
 - 第2回 令和5年2月3日（金） 内部委員3名、協議委員1名
アンケート集計結果と分析・考察。協議委員との意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
生徒、保護者に関しては「通信制課程に対する生徒・保護者の意識」、「自学自習に対する意識」、「学校に対する満足度」等を質問項目にアンケートを実施する。教職員には「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目も設定
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：694人 回収：52人 回収率：7.5%
 - ・12月 保護者全員 対象：694人 回収：50人 回収率：7.2%
 - ・12月 教職員 対象：15人 回収：15人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・「学習・卒業に対する入学前と後の意識」、「レポート作成・スクーリング」、「インターネットによる学習支援」、「教職員の対応」、自由記述（改善点、満足していること）。
- (4) 評価結果の概要
 - ・通信制課程は、他の課程（全日制や定時制）よりも自分に合っており、勉強しやすい環境だと思っている生徒は昨年同様90%を超えた。保護者の肯定的意見は昨年度より低下し86%であった。
 - ・また、進学や就職等の相談に丁寧に対応しているという生徒・保護者の評価も昨年度同様に90%を超えた。
 - ・次に、多様な生徒に対して、生徒・教職員ともにプリントやICTを活用する等、生徒の質問に優しく丁寧に答え、授業を工夫しているという肯定的な回答も昨年度同様90%を超えた。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ・回収率の向上を目指し、今年度は、すべてFormsによる回答を取り入れたが、一昨年度や昨年度に比べて、回収率は下がってしまった。生徒・保護者ともFormsにまだ慣れていないと考えられる。昨年度、生徒は97名で15%、保護者は62名で9.6%であった。
 - ・全体を通して80%を超える肯定的な評価が多く、引き続き改善を図りながら、丁寧な教育活動

を実践していきたい。

- ・昨年度同様、学校評価アンケートのなかで、レポート作成時におけるNHK高校講座の活用については、生徒61.3%、保護者54%で評価が一番低かった。NHK高校講座の活用に関しては、今後の検討していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・アンケートを通して、多様な生徒に対する、個に応じた指導が保護者や生徒に理解・支持されていることが分かった。
- ・教職員の自由記述欄に職場の雰囲気が高く、教員の人間関係も良い。仕事を進めやすいという意見があった。協議委委員からもこの状況を維持してほしいという意見をいただいた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・スクーリングに出席することが、レポート作成に必ずしも繋がらないという考えを持っている生徒が一部に存在する。スクーリングでレポートの解答を教える場合もあるが、どの教科も必ず答えを教えるとは限らないことを今後も指導していきたい。
- ・新しい「学習支援システム」(Teamsやmoca)に関しては保護者の100%が肯定的な考えを持っており、今後もこのシステムを活用し、様々な指導に役立てていく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・新教育課程への移行に伴う対応。Web学習コースの試行、レポートの電子化への取組み。

(2) 学習指導

- ・TeamsやForms及びICTの活用推進。今後もNHK「高校講座」の視聴報告を提出することにより、スクーリング出席規定数の6割まで代替可としていく。

(3) 特別活動

- ・生徒の状況を的確に判断しながら実施していく。障害者理解・共生やボランティア活動の推進。

(4) 生活指導

- ・外部団体(NPO法人)の協力によるコミュニケーション育成の場の維持。公共の場でのマナーや行動等についての指導を継続。

(5) 進路指導

- ・進路決定率の向上、生徒に目標を持たせるための、ガイダンスや面談等を通しての指導を継続。

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの連携継続。いじめ防止やセーフティ教室及び防災教育へ取組を継続し、安全への意識を高める。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数(外部委員 4名)

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう思う | どちらとも言えない | あまりそう思わない | そう思わない | 分からない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 2 | 1 | | | | | 1 |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

- ・昨年度に比べ、Teamsやmocaの登録者が激増し、連絡を取ることに對して困難な状況は減少傾向にある。今後もアンケートに限らず、教科指導や連絡などいろいろな場面での活用が考えられる。Teams等の登録及び利用促進を継続していく。